

2022.6.16



地域日本語支援ニュース こだま 第 420 号

ともに生きる

～地域で、日本で、そして世界で～

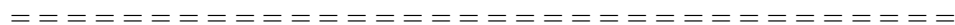


★—— メールマガジンをお読みいただき、ありがとうございます。——★

【地域日本語支援ニュース 「こだま」】は、日本語教育に関する事業を全国で行っている公益社団法人国際日本語普及協会（AJALT）発行のメールマガジンです。各地域で在住外国人に対する日本語・生活支援に携わっている方々に役立つ情報の共有を目指していきます。

★—— 皆様からのご意見、ご感想をお待ちしています。——★

編集部：<https://www.ajalt.org/local/soudan/contact.html>



■AJALT からのお知らせ■

6 月 10 日刊行！

機関誌『AJALT』45 号発行に寄せて

編集長 河原 栄

『AJALT』は年に 1 回、当協会の教師会員によって編集・発行されている機関誌です。長引くコロナ禍の影響により編集作業もさまざまな制約を受けましたが、今年も無事発行することができました。「こだま」前号で『AJALT』45 号の内容について概略をお知らせいたしましたので、今回は内容について少し詳しくご紹介します。

◆特徴

今号は第 45 号というプチ記念号であると同時に、当協会の創設者で会長の故西尾圭子の追悼号でもあります。そのような特別な号であることから、表紙も奇をてらわず、従来通り白を基調としつつ、落ち着いた色調でデザインしま

した。

また、前号から記事の一部をカラー化しておりますが、今号では弊誌の定例記事「海外だより」をカラーでご紹介しています。便りの発信地はイタリア。美しい青空を背景にしたコロッセオの写真とともにお楽しみください。

◆特集について

特集テーマは「日本語の配慮表現——言葉がつくる心の間合い」と題し、「今」の私たちの「配慮する言葉遣い」にスポットを当てています。

最近とみに、「させていただきます」が氾濫しているとお思いになりませんか。「みたいな」や「とか」のぼかし表現もよく耳にします。これらは行き過ぎると却って聞き手が不快な気持ちにさせられることもあります。一方で、テレビでは配慮などおよそ無縁のような、いわゆる「タメ口」をつかうタレントもよく目にします。

このような言葉遣いをしたり、聞いたりする私たちの心のありようはどのようなものなのか、専門の先生方に興味深いご寄稿をいただきました。「言葉がつくる心の間合い」を、みなさまとご一緒に考えたいと思います。この「たいと思います」も、ご寄稿いただいた放送大学の滝浦真人教授によると一種の配慮表現だそうです。

◆巻頭インタビュー 「私とことば」

巻頭インタビュー「私とことば」には小説家の夢枕獏氏にご登場いただきました。

夢枕獏の名前はご存じなくても、「陰陽師」シリーズを知らない人はあまりいらっしゃらないのではないのでしょうか。伝奇バイオレンス的な作風で数多くのファンを魅了している氏ですが、インタビューの準備期間中のやりとりにしても、インタビューそのものも、とても紳士的で、氏をよく知る人々からは「人格者」として慕われているというもうなずけることでした。それから考えれば、氏の精神的な支柱が宮澤賢治であるというのも意外ではありません。

森羅万象を熱く語る氏のインタビューにご期待ください。

◆故西尾圭子追悼特集

上述しましたように、昨年 8 月に永眠した当協会会長西尾珪子の追悼特集を組みました。西尾は長年当協会を運営する傍ら、日本語教育のパイオニアとしてさまざまな対外的な活動もしてきたことはよく知られています。

追悼特集では、そのような西尾の公的な一面だけではなく、旅行の写真や仲間との旅行、忘年会や新年会のエピソードなどを通じてプライベートの一面も紹介し、戦前戦後を生き抜いた一人の女性の人生を辿ります。

その他、「日本を学ぶ」、「学習者の作品から」やコラムなど定例記事もより充実した内容になっています。

『AJALT』45号をぜひご覧ください。

★機関誌『AJALT』45号は、当協会 HP よりご購入いただけます。

定価 880 円（本体 800 円）+送料

<https://www.ajalt.org/about/bulletin/>
